

平成28年度第1回学校マネジメントフォーラム

学校における業務改善の要諦 なんのため、だれが、どうやって進めるか

2016年10月28日

妹尾 昌俊

学校マネジメントコンサルタント、経営コンサルタント

senoom879@gmail.com

<http://senoom.hateblo.jp>

自己紹介 妹尾 昌俊

- 徳島県出身、神奈川県逗子市在住。
- 4人の子持ち、育児・教育には日々修行中の身です。
- 学校づくり、学校マネジメントはライフワークのひとつ。
 - 前職の野村総合研究所では、文部科学省から学校評価や学校運営、地域とともにある学校づくり(コミュニティスクール等)についての実態調査・グッドプラクティス分析、自治体から高校の組織マネジメントに関する実態調査等を受託。
 - 妹尾は上記調査のプロジェクトリーダーとして調査全般に深く関わってきました。
 - こうした中で、非常に多くの学校の教職員や教育委員会の方、住民の方のお話をうかがってきたことが今日お話することにも生きています。
- 2016年7月から独立、フリーになり、“学び続ける学校づくりを伴走する”をミッションに、教職員向け研修や学校向けコンサルティング、業務改善支援などを行っています。
- イノベーティブな取組や改善がうまく進む学校とそうではない学校の違いは何か、マネジメントをとらえなおす本『変わる学校、変わらない学校』を出版。ぜひ手にとってください～！！
- たまにブログ更新。よかったらFacebookも気軽にメッセージお願いします。



1. なぜ、いま、業務改善がある小学校教師の日常

- 9:00 1時間目スタート
- 9:45 保護者からの電話にかけなおす
- 10:45 保護者からのメールをチェックする。欠席している子どもの保護者から、欠席理由を知らせるメールが来ていなかったので、家に電話。
- 11:45 給食では子どもたちが、どのように食べ物を取るかを観察。摂食障害の検査を受けることになっている子、アレルギーのある子どもや宗教的な制限がある子もいて、教師の注視は欠かせない。
- 13:00 今日初めて職員室で同僚とともに休息する。
- 15:00 すべての授業が終わると、電子メール連絡網を使って、宿題を忘れた子どもの保護者に連絡。
- 週末は休息につとめることにしているが、日曜日の午後から翌週の準備に忙殺されることも少なくない。

1. なぜ、いま、業務改善がある小学校教師の日常

- 5月末から、日頃の重労働のごほうびとして、2か月半の夏休みがある。夏休み中は、出勤する必要はない。
- この長期の休みには、教師は有料の「自己啓発セミナー」や海外の成人学校、語学学校などに出かけ、自己研修を行う。
というより、自ら人生を楽しむ。
家族と外国旅行に出かけたり、ヨットで湖やバルト海をめぐったりする。
そのような探求的な生活が、人生への糧になり、授業の糧になる。

資料) 北川達夫ほか『フィンランドの教育』2016年、
福田誠治『フィンランドは教師の育て方がすごい』2009年



1. なぜ、いま、業務改善か ある中学校の風景 学校はさまざまなことを実施している。

- 調査報告文書
1. 麻しん施設別発生状況調査
 2. 学校基本調査 4/28 (1)
 3. 県単調査 "
 19. 学校安全計画 5/25
 20. 学校体育に係る調査 5/13 (
 21. 交通安全教育等に関する調査 4/
 22. あわいんけん講座該当者報告 4/
 23. 体力向上計画 5/1
 8. スクールカウンセラー活用事業計画
 9. キャリア教育全体計画 5/20
 10. 総合的な学習の時間全体計画 5/2
 11. 食物アレルギー対応調査 5/13
 12. 在外教育施設派遣かせん 5/2
 13. 教科書受領報告書 5/2
 14. 学級編制届出 4/15
 15. 食育リーダ氏名報告 4/26
 16. 免計外教科担任申請 4/29
 17. 学校図書館現状に関する調査 4/25
 18. 情報モラル教育年間指導計画 5/

ちょっとしたクイズです！

- 次ページからの斎藤先生と田中先生の会話をヒントに、**あなたの学校では業務改善としてどのようなことをターゲット(対象)にしたいですか？**
※勤務先の学校がない方はどこか見知った学校を想定してください。

- 2人ペアをつかって、なるべくたくさんアイデアを出しましょう。時間は**5分間**です(読む時間込み)。

(例)

- ▲部活動の見直し(→ばくっとし過ぎている)
- 部活動での休養日の設定

1. なぜ、いま、業務改善か

ある小学校教員の会話（実際の複数の事例をもとに一部脚色してあります）

問い：あなたの学校にも近い話はありませんか？業務改善はどのようなことから、なぜ始めるべきと思いますか？

斎藤先生：この頃「学校はブラックだ」、「先生は忙しすぎる」って、よく言われるようになりましたよね。たしかに、この忙しいのは何とかしてほしいけど、周りの先生たちはみんな一生懸命やってるし、これ以上どうしろ言うの！？って思っちゃいますよ。

田中先生：そうね、わたしたちだって、そんな無駄なことばかりやっているわけじゃないしね。そういえば、こんど業務改善をテーマにした研修があるみたい。

斎藤先生：そんな、ちょっとやそっとの研修で身につくくらいなら、とっくの昔に改善できてるでしょ？って感じ。だいたい業務改善ってなんなんですか？

田中先生：イメージしやすいのは、会議を短くすることかな。キチキチ最初から全部説明しなくていい、フォルダにあげたり回覧して済むなら、そうするとかね。

斎藤先生：ぼくは採用される前は民間企業だったから、学校の会議にはちょっと驚きましたよ。これメールで共有すればいいじゃん、ってのがけっこう多くて。まあ会社でメールが膨大になるのも考えものだったけど。

田中先生：うちの市ではパソコン配備やインターネット環境は遅かったしね。斎藤先生のように、学校のやり方に染まっていない視点って大事だと思うわ。長くいると、これがフツーとか、なんでも丁寧・一生懸命にやらないとって、思ってしまうし。わたしは、子どもを産んで、育児が始まってからかな。保育園迎えに行けるようになって思うと、案外いろいろ見直せるものがあった。なんか、それ以前は、ゼーんぶ重要なことに見えてた。

1. なぜ、いま、業務改善か

ある小学校教員の会話（実際の複数の事例をもとに一部脚色してあります）

問い：あなたの学校にも近い話はありませんか？業務改善はどのようなことから、なぜ始めるべきと思いますか？

斎藤先生：自分の仕事を見直す、って大切だと思うんですけど、一人ひとりができることには限界があるじゃないですか。やっぱり管理職の理解がないとなー。ぼく、実は前任校のときに、「あゆみ(通知表)をもっと簡素化できないんですか？」って聞いたことがあるんです。そしたら校長は「おれは今年限り(で定年)だし」って感じで、あれが心配、これと調整しないと、とかばっかり言うんですよ。

田中先生：今まで続いてきたことはそれなりの理由があるわけだし、むげには否定できないわ。と言っても、今までのやり方で本当によかったのか、もっとほかの方法はないのか、その時間を別のところに使うべきではないのか、っていう検討は必要だと思う。あゆみは、所見欄をもっと簡単にできると、ずいぶん助かるし、その子の課題は保護者面談などで丁寧に説明すればいいことなんだし、こんど教務部や他の先生たちと掛け合って、管理職に提案してみましようよ。

斎藤先生：田中先生が味方になってもらえると力強いです。さっき先生もおっしゃってましたけど、なんでも丁寧・一生懸命、忙しいが美德みたいなところは、どうかと思いますね。

田中先生：それは学校、教師のよさでもあり、課題でもあるわね。わたしは、子どもを寝かしつけた後、提出物の丸付けをするときなんて、わたしが寝ている間にやってくれる小人さんがいるといいのに、って思ったもの。

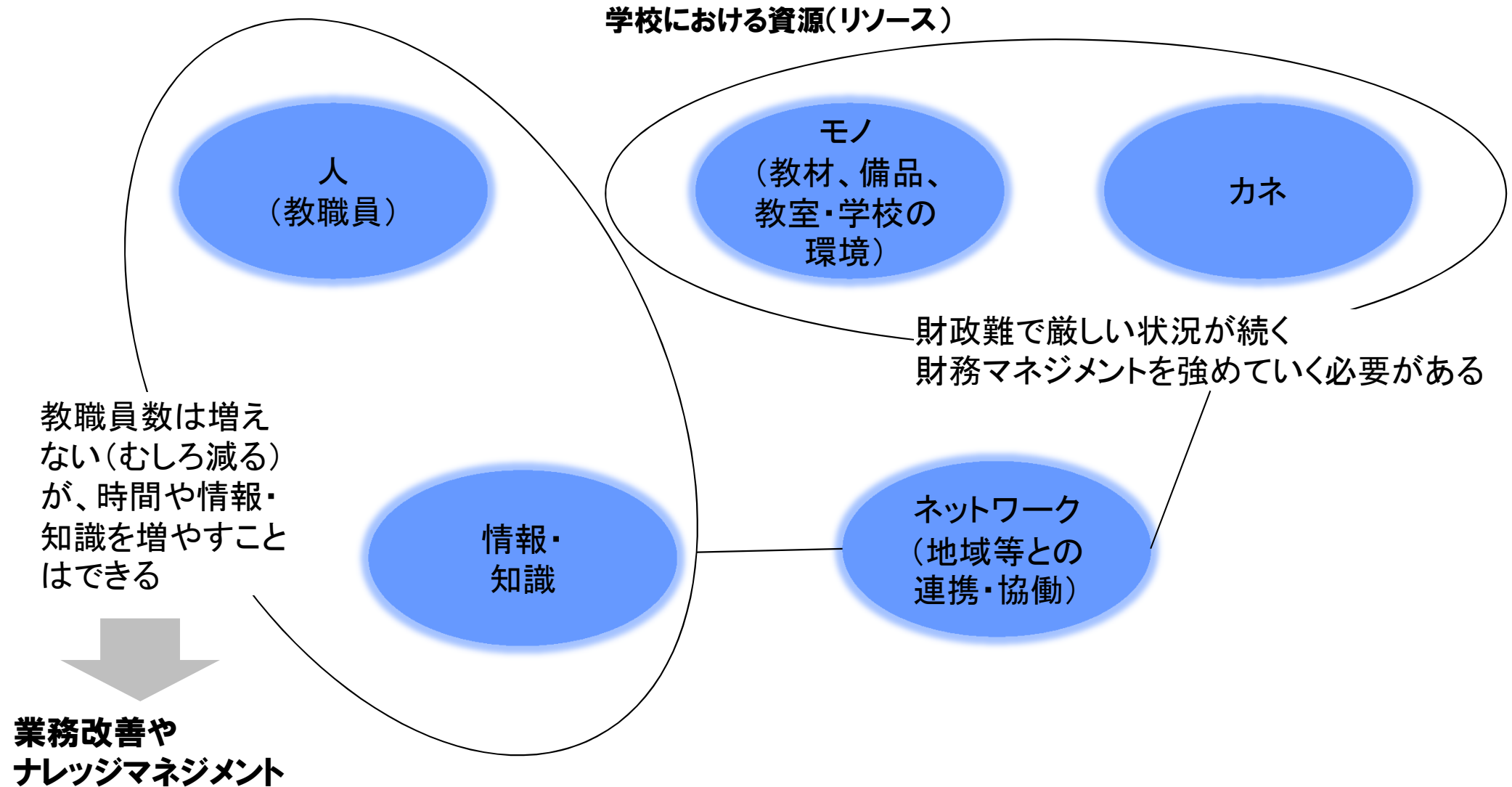
斎藤先生：そういえば、補習を大学生がサポートするNPOの方と先日会いました。ちょっと相談してみようかな。すぐ児童の個人情報心配とか、できない理由を言う人がいますが、なにかできる工夫はありそうな気がします。

田中先生：それはとってもいいアイデアだわ。できることから始めてみましょう。

1. なぜ、いま、業務改善か

限られた人、モノ、カネ、情報をうまく活用していく必要がある。

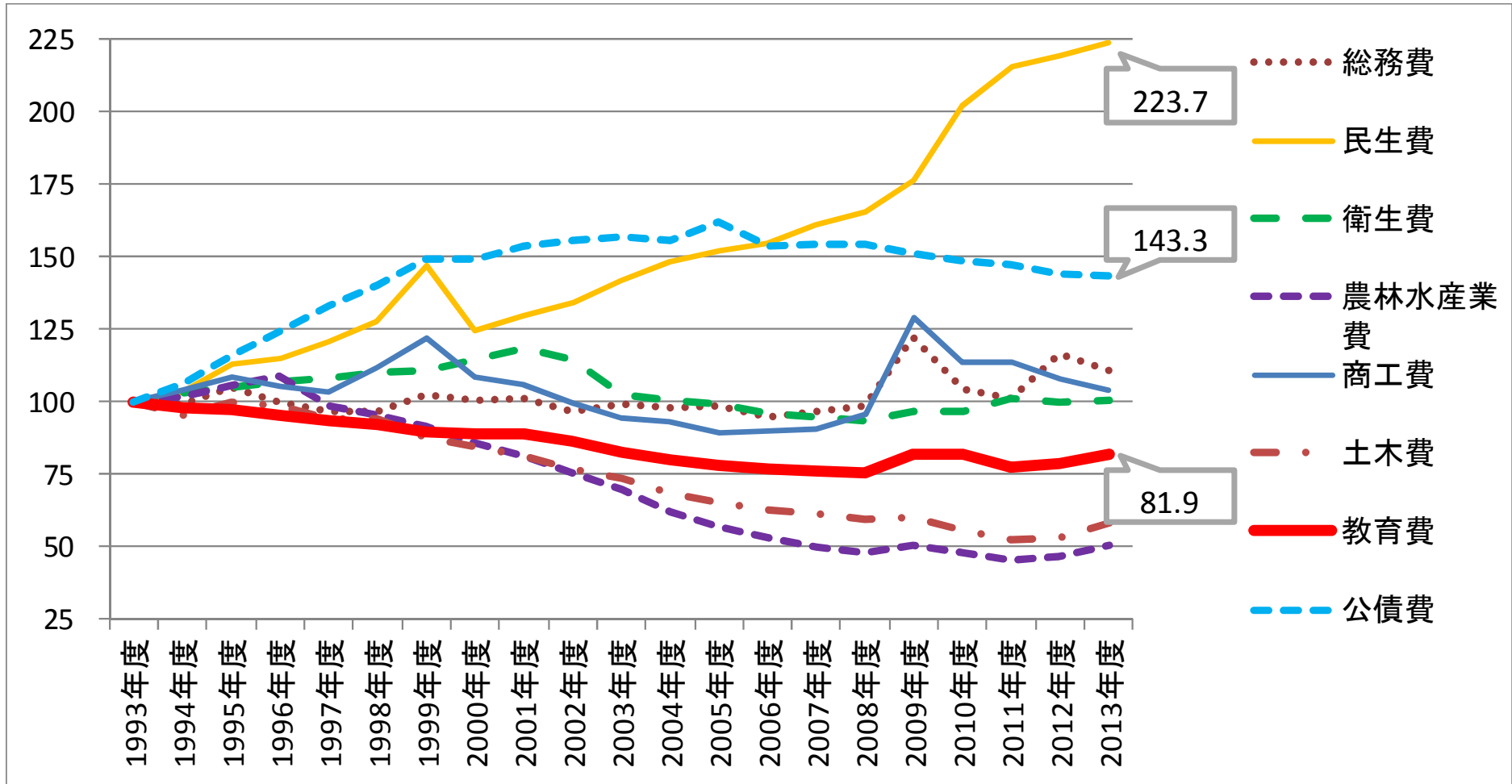
→ なぜ？ → その学校のビジョン・目標を実現しやすくするため。



1. なぜ、いま、業務改善か

市町村の教育費は過去20年間ほぼ減少傾向が続いており、今後民生費(福祉等)がさらに増加することを見越すと、財政状況は厳しい。

市町村の歳出の推移（1993年＝100とした場合）



■ 市町村は教職員の人件費の多くは負担していないため、人件費以外で学校等への教育活動に市町村がどの程度の予算を当ててきたかの推移をみる事ができる(ただし、学校関係以外の教育費も含まれる)。

出所)平成15年度、平成25年度地方財政統計年報より作成

1. なぜ、いま、業務改善か

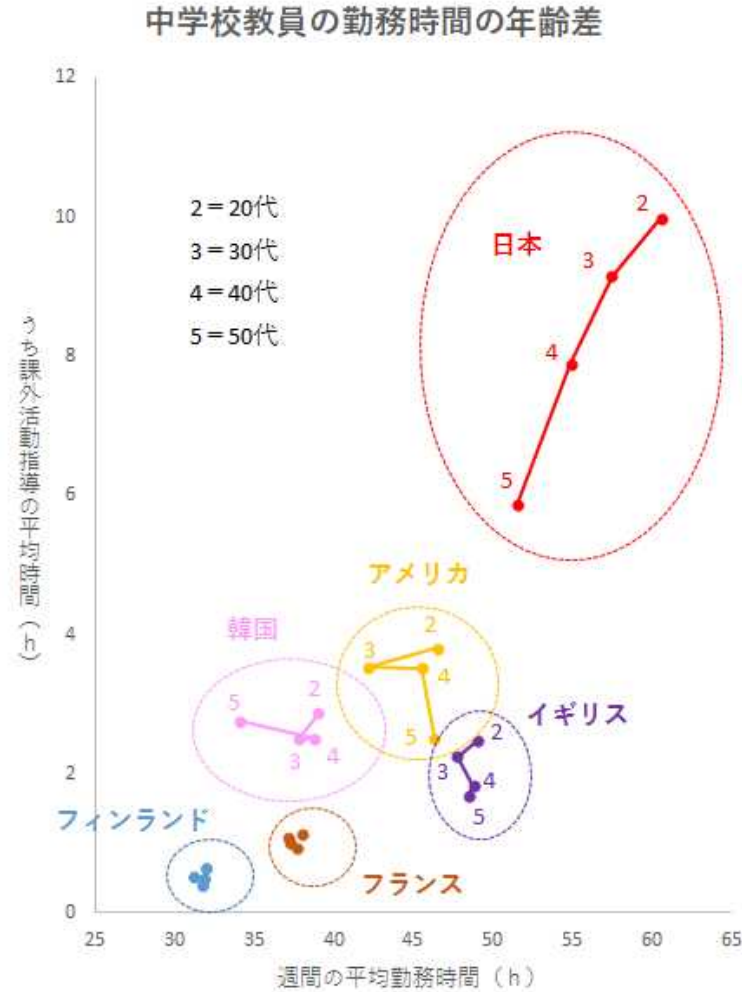
多忙化:OECD国際教員指導環境調査(TALIS)によると、学力上位国と比べても日本の教員(中学校)は多くの生徒を相手にしており、仕事時間も長い。ただし、授業準備や教育相談の時間が特段多いわけではない。

国際教員指導環境調査等による教員の仕事時間、内訳等

国名	仕事時間の合計	指導(授業)	授業の計画や準備	学校内での同僚との共同作業や話し合い	生徒の課題の採点や添削	生徒に対する教育相談	学校運営業務	一般的事務業務	保護者との連絡や連携	課外活動の指導	その他の業務	教員1人当たりの生徒数	PISA2012(数学的リテラシー順位)
Singapore	47.6	17.1	8.4	3.6	8.7	2.6	1.9	5.3	1.6	3.4	2.7	14.0	2
Korea	37.0	18.8	7.7	3.2	3.9	4.1	2.2	6.0	2.1	2.7	2.6	15.5	5
Japan	53.9	17.7	8.7	3.9	4.6	2.7	3.0	5.5	1.3	7.7	2.9	20.3	7
Netherlands	35.6	16.9	5.1	3.1	4.2	2.1	1.3	2.2	1.3	1.3	2.5	11.4	10
Estonia	36.1	20.9	6.9	1.9	4.3	2.1	0.8	2.3	1.3	1.9	1.5	7.7	11
Finland	31.6	20.6	4.8	1.9	3.1	1.0	0.4	1.3	1.2	0.6	1.0	10.0	12
Poland	36.8	18.6	5.5	2.2	4.6	2.1	0.9	2.5	1.3	2.4	1.9	7.9	14
Australia	42.7	18.6	7.1	3.5	5.1	2.3	3.1	4.3	1.3	2.3	2.2	12.3	19
Denmark	40.0	18.9	7.9	3.3	3.5	1.5	0.9	2.0	1.8	0.9	2.3	12.1	22
Czech Republic	39.4	17.8	8.3	2.2	4.5	2.2	1.1	2.7	0.9	1.3	1.4	13.0	24
France	36.5	18.6	7.5	1.9	5.6	1.2	0.7	1.3	1.0	1.0	1.1	13.6	25
Iceland	35.0	19.0	7.3	3.3	3.2	1.4	1.2	2.0	1.4	1.1	2.3	8.4	27
Latvia	36.1	19.2	6.4	2.3	4.6	3.2	1.0	2.4	1.5	2.1	1.4	9.1	28
Norway	38.3	15.0	6.5	3.1	5.2	2.1	1.3	2.8	1.4	0.8	1.4	8.5	30
Portugal	44.7	20.8	8.5	3.7	9.6	2.2	1.8	3.8	1.8	2.4	2.6	10.5	31
Italy	29.4	17.3	5.0	3.1	4.2	1.0	1.0	1.8	1.4	0.8	0.7	9.8	32
Spain	37.6	18.6	6.6	2.7	6.1	1.5	1.7	1.8	1.5	0.9	1.5	11.8	33
Slovak Republic	37.5	19.9	7.5	2.3	3.5	1.9	1.1	2.7	1.3	2.0	1.6	12.1	35
Sweden	42.4	17.6	6.7	3.5	4.7	2.7	0.8	4.5	1.8	0.4	1.7	10.8	38
Croatia	39.6	19.6	9.7	2.1	3.9	1.8	0.5	2.6	1.5	1.9	1.8	10.8	40
Israel	30.7	18.3	5.2	2.7	4.3	2.1	2.1	1.9	1.8	1.7	3.8	10.8	41
Serbia	34.2	18.4	7.9	2.3	3.4	2.3	0.8	2.4	1.6	2.2	2.1	11.8	43
Romania	35.7	16.2	8.0	2.7	4.0	2.6	0.9	1.5	1.8	2.3	1.8	15.1	45
Cyprus ^{4,5}	33.1	16.2	7.3	2.7	4.9	2.0	1.3	2.4	1.7	2.5	2.2	7.1	46
Bulgaria	39.0	18.4	8.1	2.5	4.5	1.7	1.1	2.7	1.7	2.0	1.7	12.5	47
Chile	29.2	26.7	5.8	2.8	4.1	2.4	2.3	2.9	2.0	2.0	2.2	20.4	51
Malaysia	45.1	17.1	6.4	4.1	7.4	2.9	5.0	5.7	2.4	4.9	4.3	13.6	52
Mexico	33.6	22.7	6.2	2.4	4.3	2.8	1.7	2.3	2.3	2.3	2.0	15.1	53
Brazil	36.7	25.4	7.1	3.3	5.7	2.7	1.7	1.8	1.7	2.4	2.2	19.1	58
Average	38.3	19.3	7.1	2.9	4.9	2.2	1.6	2.9	1.6	2.1	2.0	12.4	

OECD国際教員指導環境調査(TALIS)

- ①日本では、50代の年輩教員も国際標準より多く働いている。
- ②よく言われるように、若手ほど過重労働である。



*フルタイム教員のデータである。
資料：OECD「TALIS 2013」
作成者：舞田敏彦 (@tmaita77)

1. なぜ、いま、業務改善か なぜ長時間労働となるのか？その影響はどこに来るか？

児童・生徒のためになりますから、先生方、
あれもこれも、がんばりましょう！

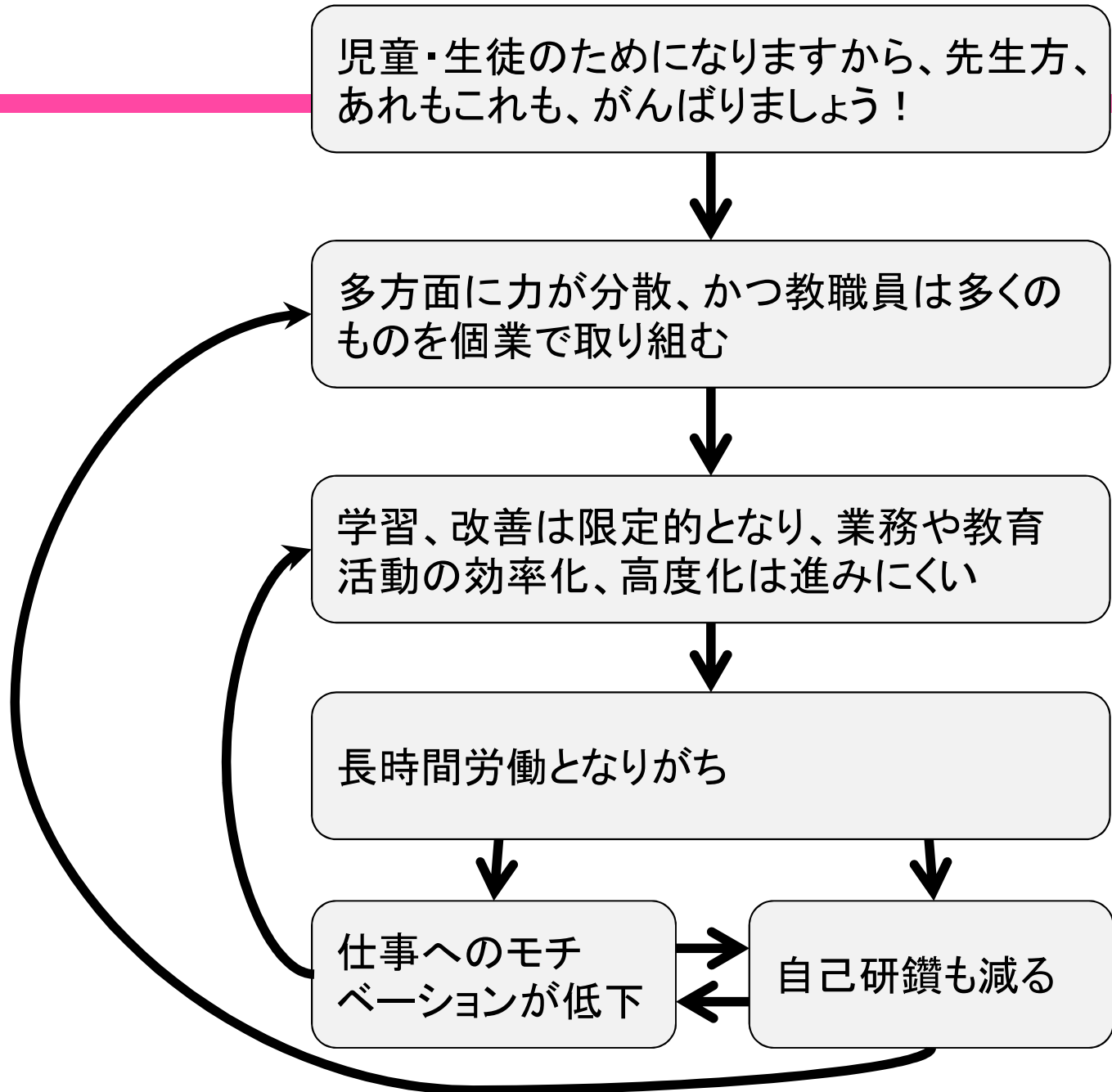
多方面に力が分散、かつ教職員は多くの
ものを個業で取り組む

学習、改善は限定的となり、業務や教育
活動の効率化、高度化は進みにくい

長時間労働となりがち

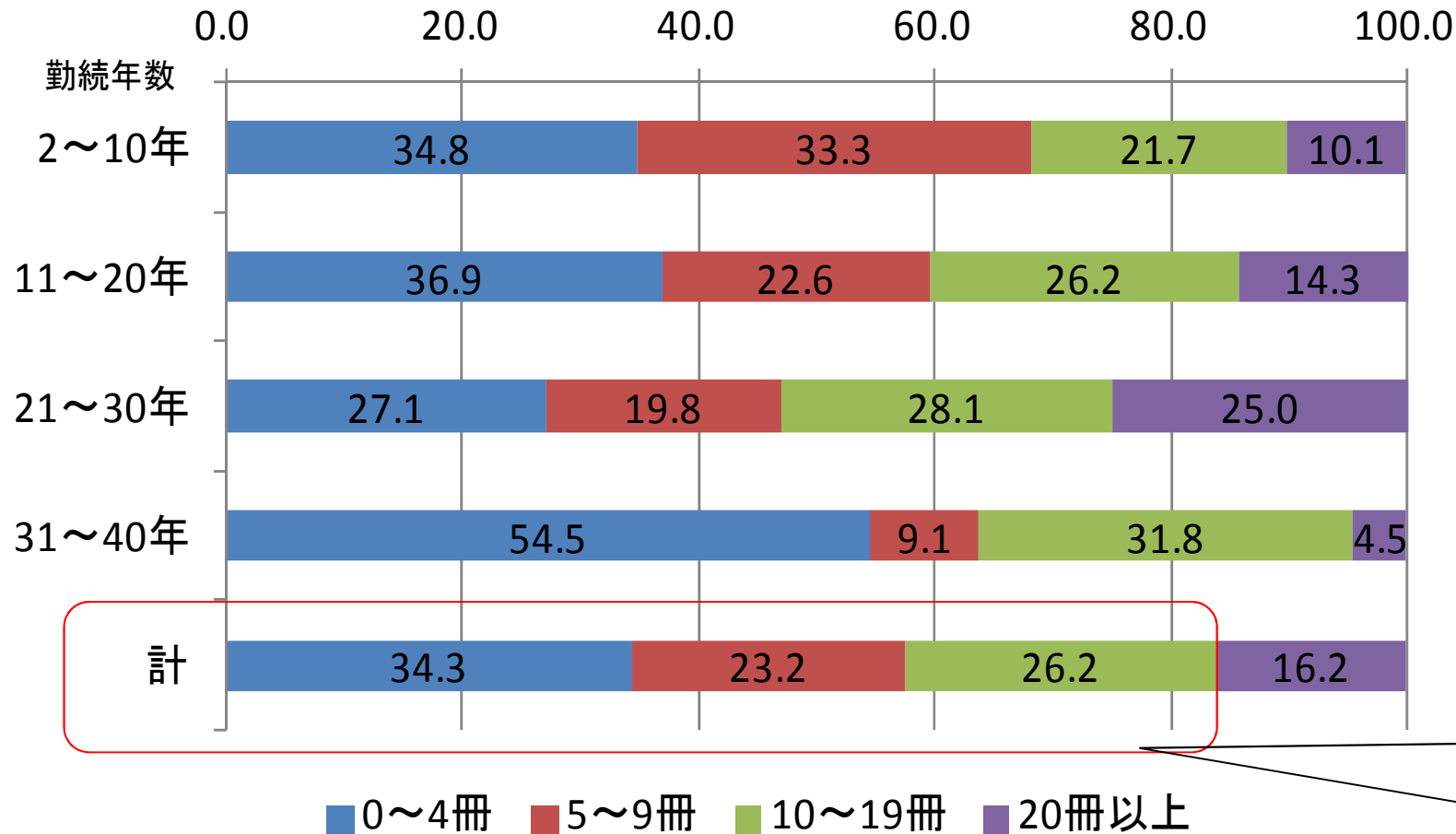
仕事へのモチ
ベーションが低下

自己研鑽も減る



1. なぜ、いま、業務改善か なぜ長時間労働となるのか？その影響はどこに来るか？

勤続年数別、一般教諭の年間読書量(教育に関する本)



注)小中高の教員への調査。回答数は不明なことなど、一定の留意は必要。

出所)「教育新聞」2011年7月25日、同年8月4日https://www.kyobun.co.jp/feature/20110804_04/

1. なぜ、いま、業務改善か なぜ長時間労働となるのか？その影響はどこに来るか？

長時間労働のもたらしている最大の弊害とは、
能力開発の機会喪失である。 玄田有史『働く過剰—大人のための若者読本』

西洋東洋を問わず、古来、教えるという不遜な仕事を教師が行うことができたのは、**教師自身が**他の誰よりも読書をし、
学んでいたからである。

そのおおもとが崩れているとしたら、これこそ教育の最大の
危機と言うべきだろう。 佐藤学『教師花伝書—専門家として成長するために』

学校は、命令や指令、強引な順位付けではなく、学習の方向
付けを導入することで、持続可能性のある、生き生きとした、
創造的な場に変えられる。 ピーター・M・センゲ他『学習する学校』

1. なぜ、いま、業務改善か

中教審教育課程部会 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ

(平成28年8月26日)

- これから子供たちが活躍する未来で一人一人に求められるのは、**解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手順を効率的にこなしたりすることにとどまらず**、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、**主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したり**して、新たな価値を生み出していくことである

これは、子供に対してだけでなく、
教員や事務職員にこそ言えることではないか？

- ✓ 指導書の通り、あるいは昔からのやり方しかできない教師
- ✓ 正確に仕事をこなすことだけで満足する事務職員
- ✓ チャレンジしようとする、出る杭は打たれる職場、学校文化 等々

2. だれが、どうやって進めるか

もう一度、冒頭の2人の小学校教員の話思い出してみましょう。

- ✓ 周りの先生たちはみんな一生懸命やってる
- ✓ とっくの昔に改善できてるでしょ？
- ✓ ぜーんぶ重要なことに見えてた

どうして、学校では業務改善がむずかしいのか？
なぜ、学校では仕事は増えるばかりで、減らすことが苦手なのか？

※あなたの学校ではどのような背景がありますか？

ここの診断を見誤ると、有効な対策を立てることはできません。

社会の期待、
要請

子どもの課題
の複雑化

保護者の期
待、要請

学校の前例、
伝統

児童・生徒のためになりますから、先生方、
あれもこれも、がんばりましょう！

多方面に力が分散、かつ教職員は多くの
ものを個業で取り組む

学習、改善は限定的となり、業務や教育
活動の効率化、高度化は進みにくい

長時間労働となりがち

仕事へのモチ
ベーションが低下

自己研鑽も減る

課題分析不足、戦略不在
組織マネジメントの停滞

意味づけ不足、
一部やらされ仕事

地域等との連携不足、
学校で抱え込み

フォローアップ不足、
計画だけ or やりっぱなし

経験の浅い若手の増加

集団思考(みんなが
やっているから仕方ない)

2. だれが、どうやって進めるか

前例・伝統について。学校には“善意”があふれている。

子どものため、よかれと思ってやっていることが本当いいのか？を含めて見直す。

	教職員はよかれと思って やっている	教職員はあまり自覚なく (自然と)やっている
結果、効果が 比較的 見えやすい	【タイプ1】 個人個人での好循環が働きやすい。つまり、教職員は自ら学習しながら、PDCAサイクルにしていきやすい。	【タイプ2】 自分では気づかなくても、他人は気づくことも多い。 日常の声掛け、OJTや研修が効果的。
結果、効果が 比較的 見えにくい	【タイプ4】 もっとも見直し・改善が進みにくい。タイプ3の取組に加えて、多様な見方ができる人々で議論しながら、あり方、方法を検討していく必要がある。	【タイプ3】 誰もが気づきにくい。結果やプロセスの洗い出し、可視化の努力が必要。

2. だれが、どうやって進めるか 学校の「コスト」を意識する。

①大きなコストは何か

文部科学省「平成26年度地方教育費調査」によると、**地方公共団体が支出した学校教育費**(大学、短大を除く)は全国で**約13兆円**、内訳としては**教員給与(45.1%)**、**事務職員給与等(25.2%)**、**建築費(11.1%)**がトップ3である。また、表には出てこないが、「時間」というコストにも注目したい。「時は金なり」。非効率な時間は、学校のコスト比重の高い人件費等を無駄にしていることと等しい。

②1授業当たり、おいくら？

在学者一人当たり学校教育費は、小学校は約91万円、中学校は約104万円、高等学校(全日制)は約110万円(前掲調査)。学校種によるが、40人の学級として、その学級だけで年間約4千万円。例えば、中学校であれば授業時数は年間約1000なので、**1回の授業あたり約4万円(つまり生徒一人当たり約千円)かかっている**。このような数字をおさえておくことも、コスト意識には重要であろう。

2. だれが、どうやって進めるか あなたの半径3メートルに業務改善やマネジメントの素材はある！

和歌山県かつらぎ町の事例

学校便りを見れる場所、どこでしょう？



出所)野村総合研究所「平成21年度学校評価事例集」

横浜市立永田台小学校の事例

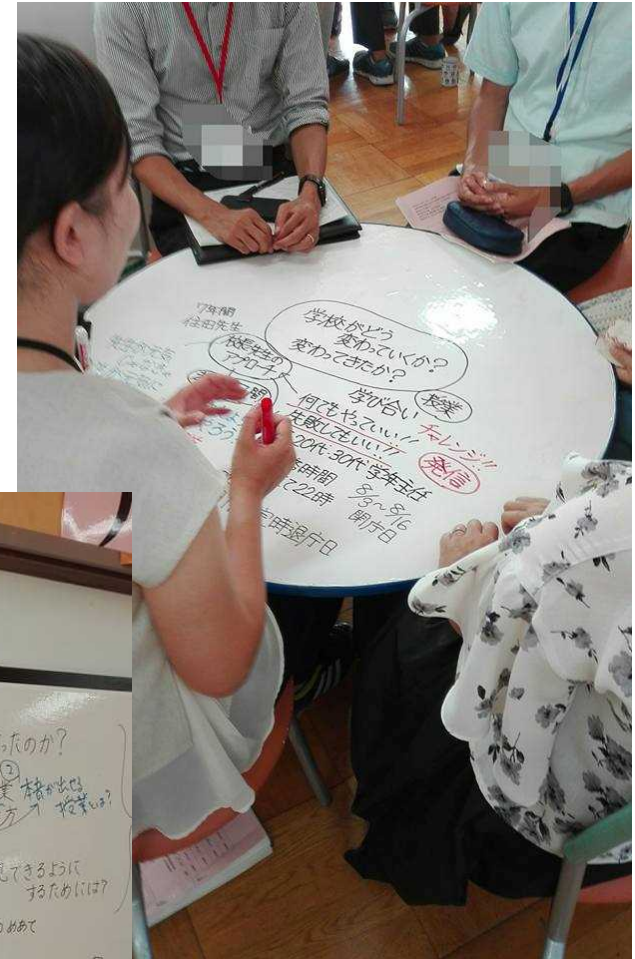
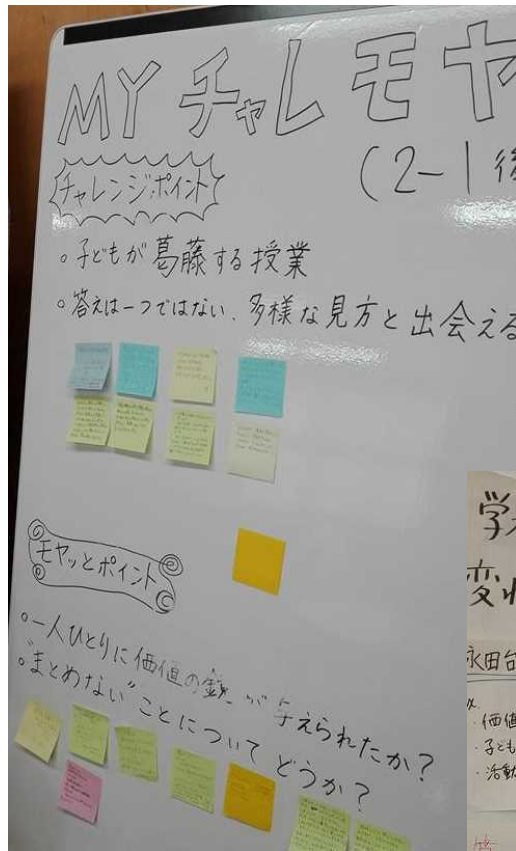
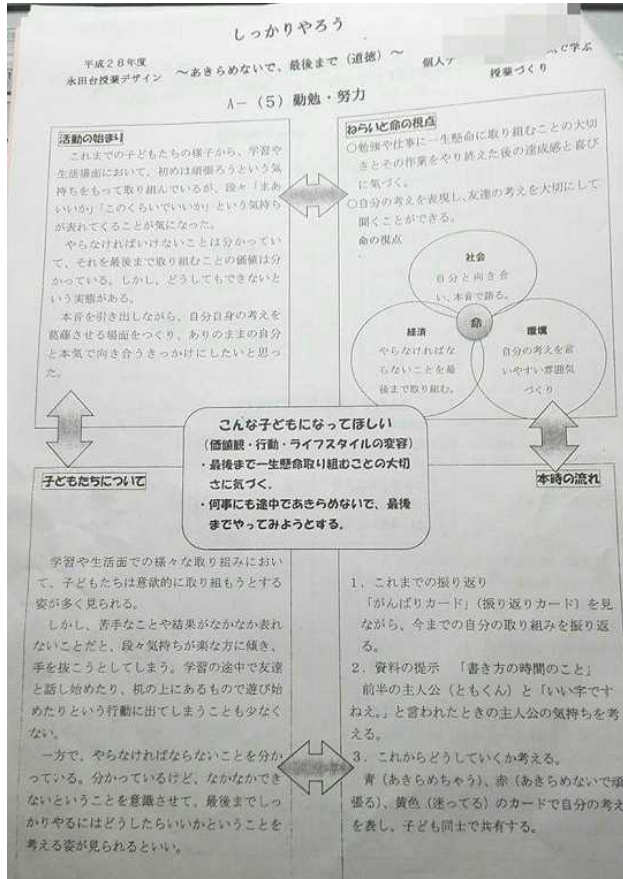
- 学級便りを廃止、学校便りに統合
 - 学級経営案を4、5ページを1枚に
 - 書類を40%削減し、電子や共有書棚に
 - 職員室のカフェスペース
- ※これらについて教員のボトムアップな企画・発案で実施→効果を測って追加、見直し

愛知県小牧市立小牧中学校の事例

- 開校以来65年間、年2回発行していた学校新聞を廃止(年2回なので時機を逸した記事もかなりあった)。
⇒ホームページで随時発信。
- 生徒手帳を廃止。印をおすのは相当の手間、しかも値段もけっこうする。生徒に聞くと身分証として使うが、手帳欄は使わないという。
⇒身分証明書を生徒データベースからカードに打ち出す形式に変更。

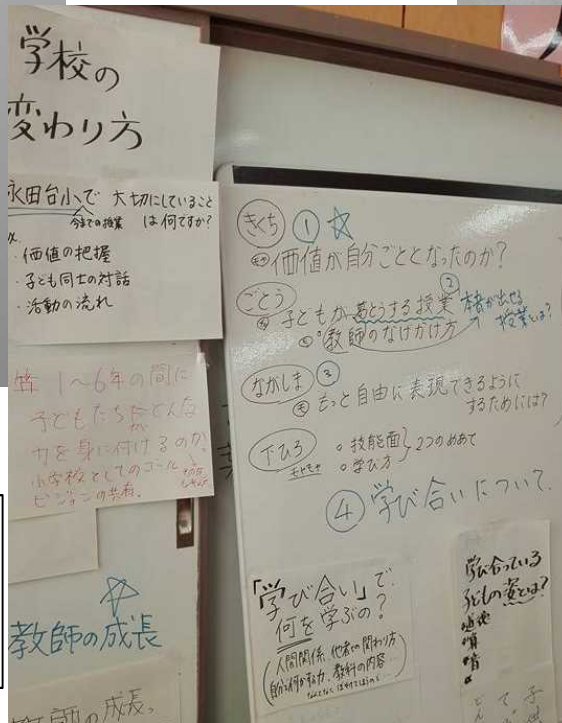
出所)玉置崇『主任から校長まで学校を元気にするチームリーダーの仕事術』 20

2. だれが、どうやって進めるか なんのためにやっているのか？指導案をつくるための授業研究会か？ そもそも論を大切にしながら改善を続ける。 事例：横浜市立永田台小学校



指導案は1枚紙で

チャレンジしたいこと、
 もやっとしている
 ことを可視化



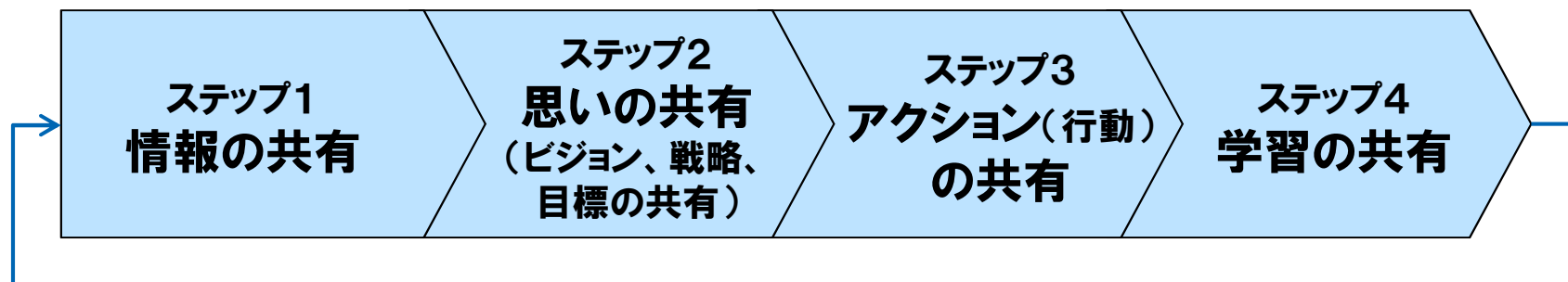
問題意識のある
 テーマで教職員
 +外部人材でWS

2. だれが、どうやって進めるか

情報の共有と意思の共有があってこそ、活動につながる。

かつ、少しずつでも学習の共有を図ることが次のステップにつながる。

組織マネジメントの基礎となる4つの“共有”ステップ



学校の
身近な例
も同じ

- 生徒の家庭学習の状況を把握、ほとんどできていないことを確認
- 家庭学習が定着しない背景について情報収集した結果を共有
- 家庭学習の定着が重要な理由、意味づけを確認
- 家庭学習の定着に向けた目標と中核となる取組を具体化、共有
- 中核となる取組を熱心な教員だけでなく、学校や校務分掌単位で組織的に実行
- 家庭学習の定着に向けて取り組んだことを振り返る、その結果を共有・引き継ぐ
- 改善方策を検討

○Plan→Do→SeeやPlan→Do→Check/Actionと重なるが、4つの共有として理解するほうが、中身をイメージしやすいのでは？

○“チーム学校”や業務改善を進めるためには、情報として、お互いの強みと弱みについてある程度知っていること、また誰がどんなことを知っているかというゆるやかな知識ネットワークが重要。

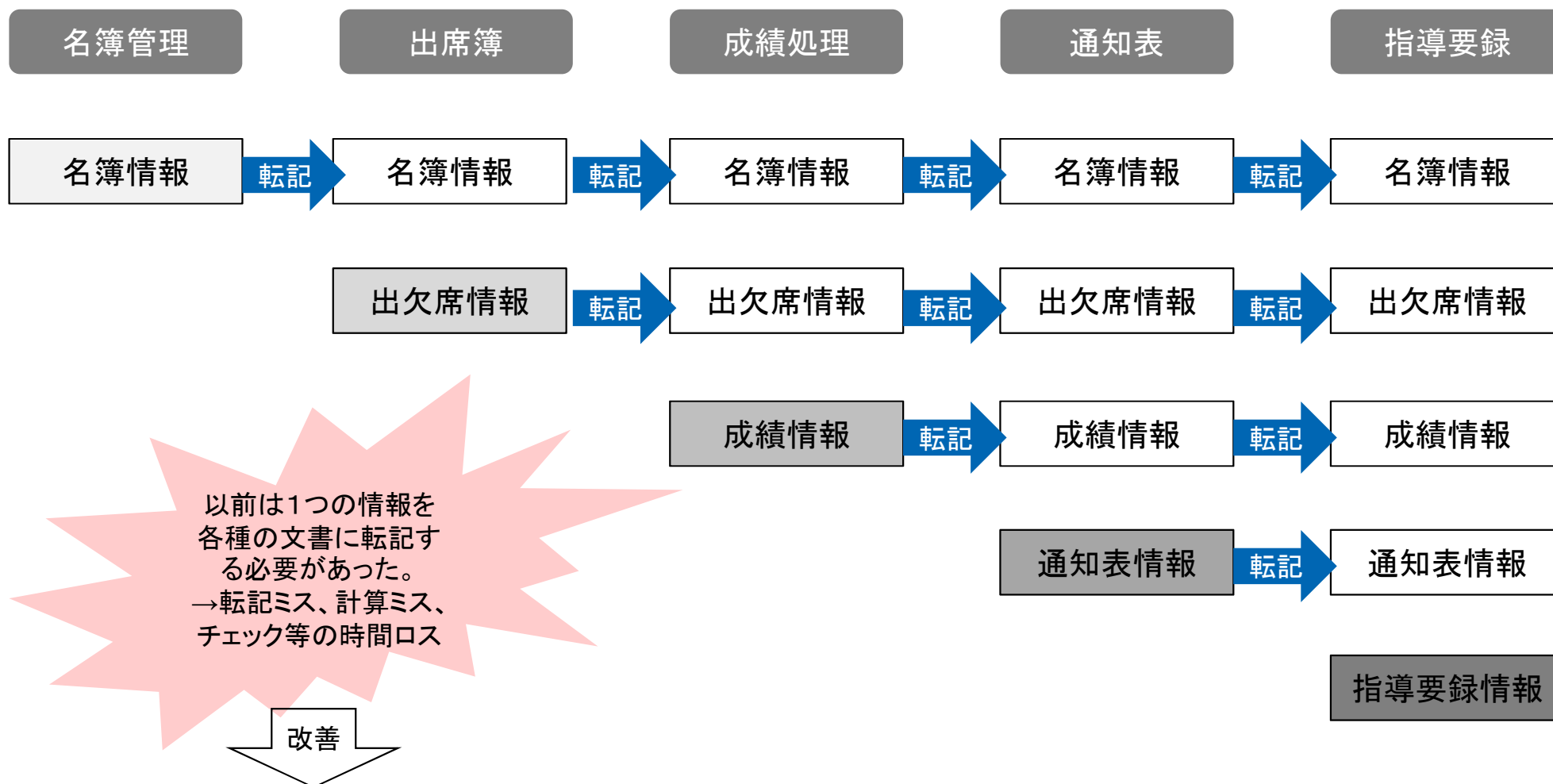
2. だれが、どうやって進めるか 情報の共有と意思の共有の例

悲しい事故をきっかけに養護教諭のもつ情報を活用し、学校のリスクを可視化

- ある小学校では、児童の転落死をきっかけに、先生も保護者も悲痛な思いのなか、従来の学校安全対策の全面的見直しと、事故防止策の徹底に乗り出しました。
- 新たに始められた取組の1つが、学校の敷地内で起きた怪我のマップをつくるというものです。まずは、養護教諭が、保健室を訪れた子どもの記録をもとに、学校敷地内のどの場所で怪我が起きたのかを整理します。そして、そのデータにもとづいて、保健委員の子どもが学校の敷地図のなかの怪我の発生個所に1つひとつシールを貼っていきました。
- 養護教諭は、体育館や校庭にたくさんのシールが貼られることになるだろうと予測していました。しかし、「こうして調べてみたら、意外にも教室の怪我が多かった」のです。
- こうしたエビデンス・ベースドから負傷事故の発生状況を整理・共有した結果、より効果的に事故防止を達成するための、新たな関心のあり方が生み出されました。実際、PTAと教職員の敷地内の点検の際には、教室の点検が丁寧に行われています。
- この事例が重要なヒントを含んでいるのは、怪我の発生実態を養護教諭のもつ情報から可視化していったということです。つまり、学校または行政には、課題や実態について重要なヒントを与える情報が、整理されていないかたちにせよ、たまっている可能性があります。このケースのように、そうした情報を引き出し、共有し、意思の共有やアクションにつなげていくことが重要となります。

2. だれが、どうやって進めるか

身近なところにヒント＋教委の支援：大阪市の校務支援システムの活用



入力は1度だけ。マスターデータを修正すれば、関係するシステムすべてに反映される。

出所)「総合教育技術」2015.11を一部加工

2. だれが、どうやって進めるか

何をしたかを書くのではなく、「**どんなことを学んだか**」を書く+コメントはチェックボックスで

自己評価カード 6年 組 号 氏名 ()

今日のめあて		写真をもとにスピーチするための原こうを書く。	
項目	ABC	できるようになったこと・次がんばりたいこと	先生から
9月			
やる気	A	原こうを書くときには、写真に写っている物のよいところを見つけ、それを文章に書き自分の考えを書くことが大事だと思っ、しかし私は、今日自分の考えを書くことができなかった。次は自分の考えをしっかりと伝えられるようにがんばりたい。	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input checked="" type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
29日 (金)	話す・聞く		
考える	B		
今日のめあて		写真を元にしてプレゼンテーションを行い、どんな味か試みる。	
10月			
やる気	A	私は、点字ブロックについて発表しました。資料をさしなから発表するのは、むずかしかったけど、たいく発表できたと思う。ほかの人たちもいろいろな条件のスタンプのことを考えて発表して、よかった。次は学校のユニバーサルデザインについてなので、いろいろなことを考えて工夫していきたいです。	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
2日 (A)	話す・聞く		
考える	B		
今日のめあて		学校の回りをユニバーサルデザインの視点で見回る	
10月			
やる気	A	学校の回りは、せまくておりにくいところ、段があつて危ないところなどがたくさんあつた。逆に音の出る信号機や点字ブロックがずっと続いているところなどいいところもあつた。不便だと思つたものは、たくさんあつた。工夫があると車いすの人にも小さい子にも、目が不自由な人にも使いやすくていいと思つた。その工夫について話していきたい。	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
3日 (火)	話す・聞く		
考える	A		
今日のめあて		提案のストーリーを考えよう	
10月			
やる気	A	ストーリーを考えるために写真を見て、えらびながら順番を考えた。えらぶのにもどの映像たら分かつくれるのかを考えた。えらぶことが大事だと分かつた。見る人に分かりやすいように考えた。見るように写真の順番を考えたい。	<input type="checkbox"/> もっと書こう <input type="checkbox"/> 理由を書いて <input type="checkbox"/> 何を学んだの <input type="checkbox"/> 次の課題は？ <input type="checkbox"/> がんばって！ <input checked="" type="checkbox"/> 伸びてます！ <input checked="" type="checkbox"/> よい自己評価 <input type="checkbox"/> すばらしい！
4日 (水)	話す・聞く		
考える	B		

資料) 前田康裕『まんがで知る教師の学び』、ならびに関連セミナー

2. だれが、どうやって進めるか

業務改善やマネジメントを進めるうえで、学校がもっておきたい視点

マネジメントの成功は、**アートとクラフトとサイエンスがそろった**ときに生まれる。 H・ミンツバーグ『MBAが会社を滅ぼす～マネージャーの正しい育て方』

アートは、直観とビジョンを大事にする経営と言い換えられます。

クラフトは職人的な技と経験を重視した経営です。

サイエンスは理論と分析を重視する経営です。

アート一辺倒だと、独りよがりな「ナルシスト型」、クラフト一辺倒だと、自分の経験にないことには踏み出そうとしない「退屈型」、サイエンス一辺倒では人間性が失われかねない「計算型」の経営となると警告します。

＜アート＞どんな子どもを育てていきたいか、そのために学校はどのようなことに取り組み、どのようなことに力を入れるか。

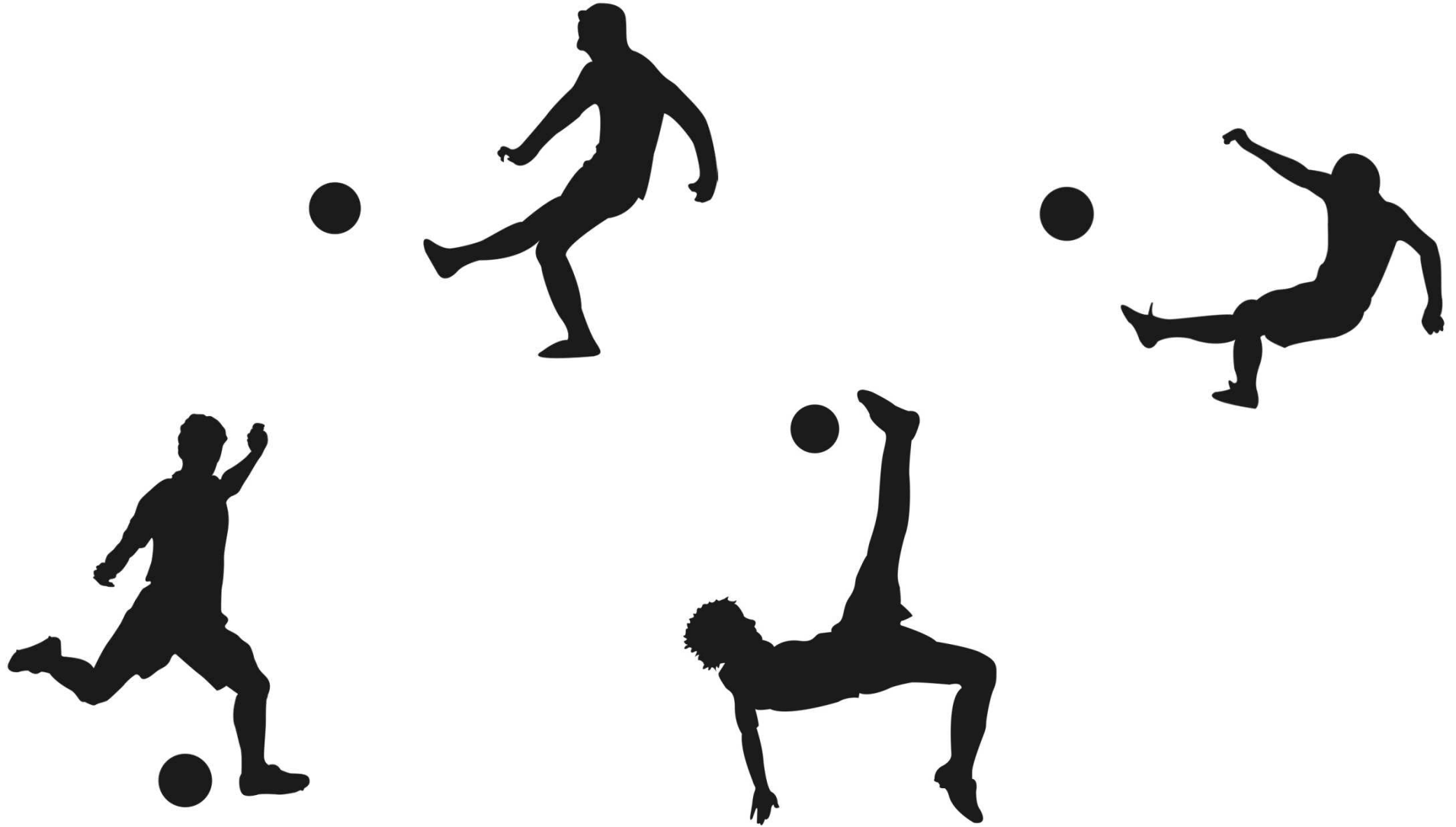
＜クラフト＞子どもたちや教職員、地域を見ていて、これまでの経験から、何か問題や可能性に気づいたことはあるか。

＜サイエンス＞これまでなぜ改善しなかったのか。目標達成で鍵となる取組は何か。

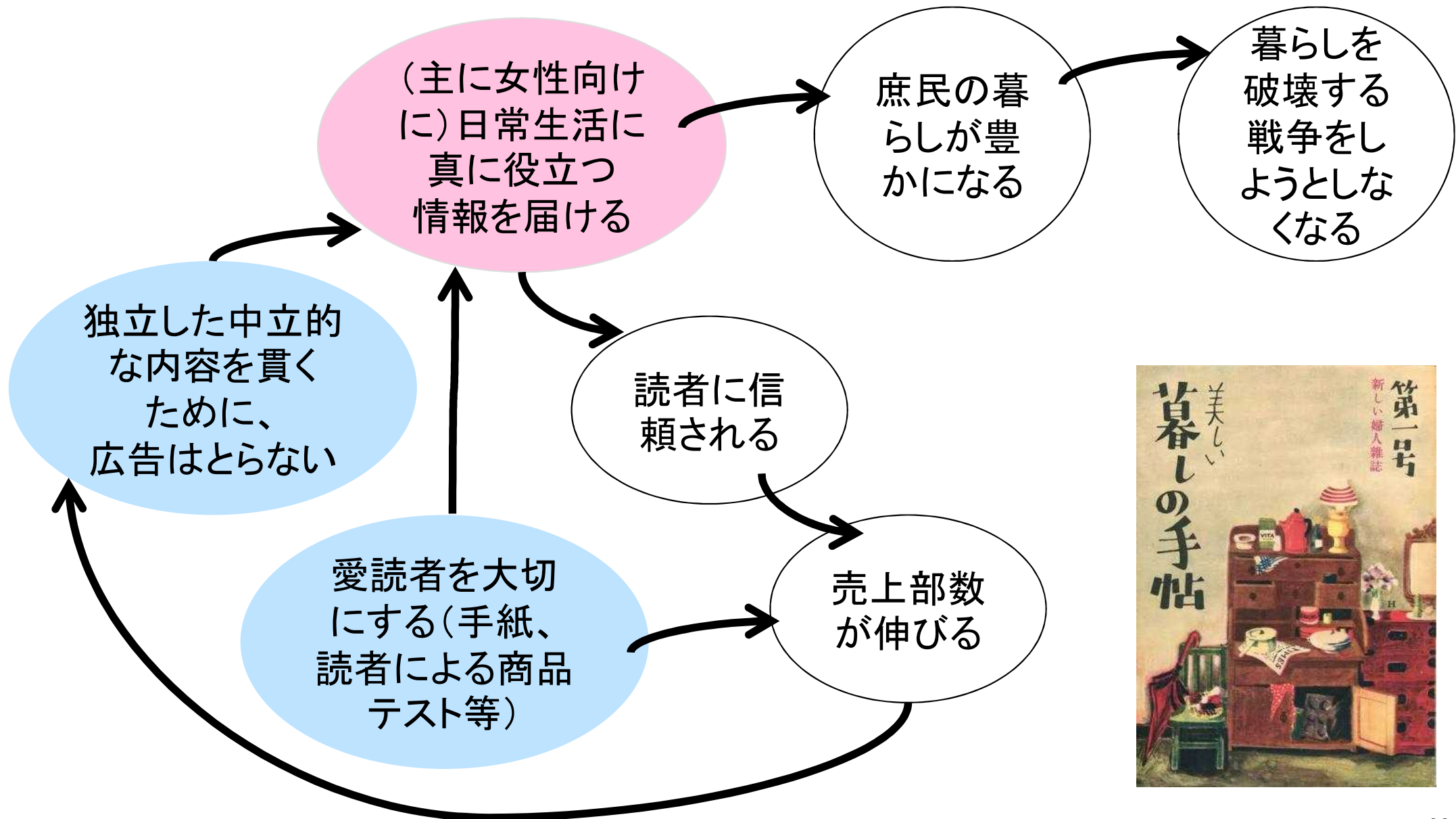
2. だれが、どうやって進めるか

“チーム学校”以前の(以前からの)問題

学校では、各教職員があべこべのゴールをめざして蹴っているのではないか？

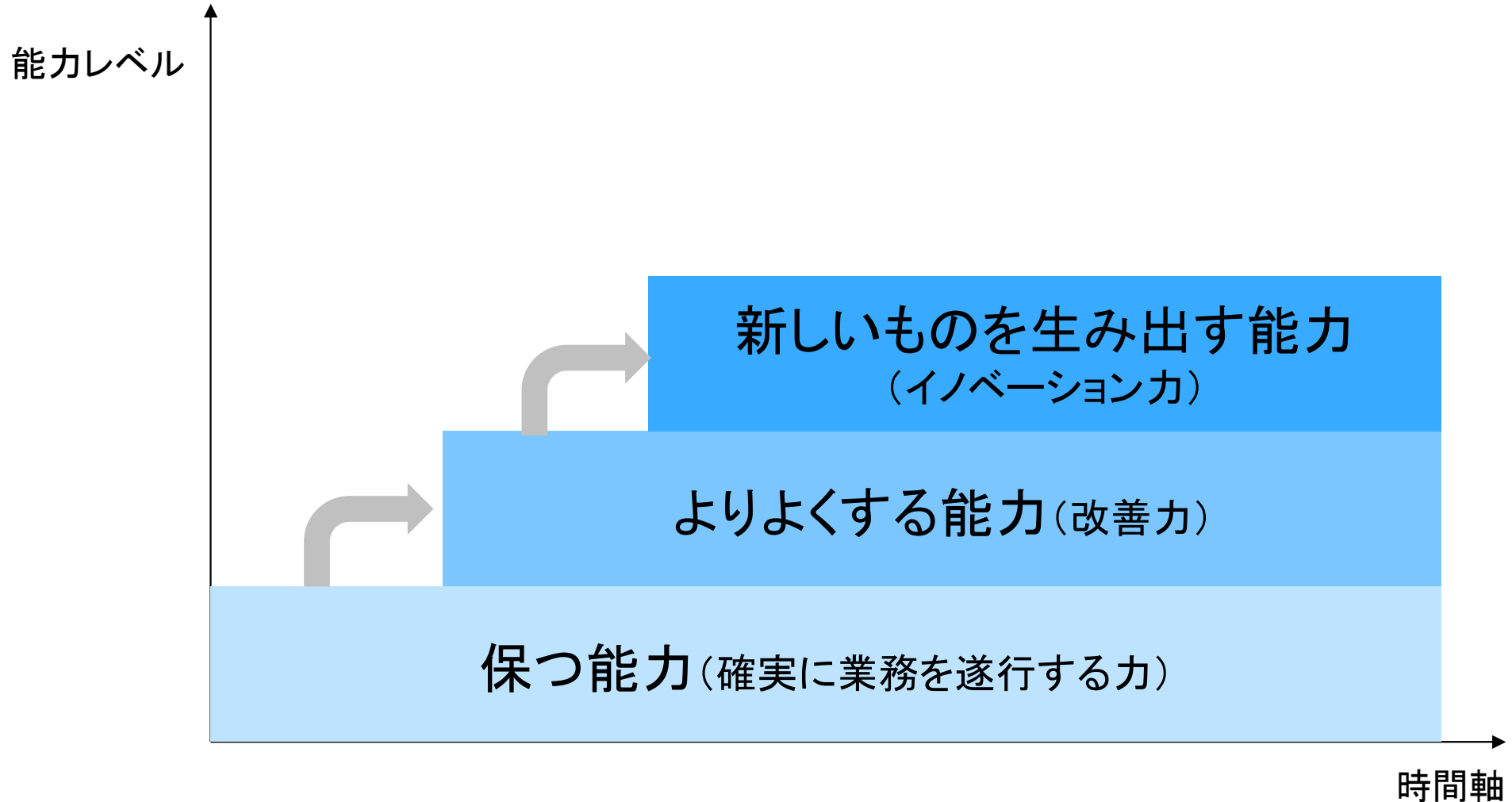


(参考)朝ドラ「とと姉ちゃん」のモチーフとなった「暮らしの手帖」の「戦略」
“単なる雑誌じゃないんだ。この国の暮らしをよくする運動なんだ”(編集長 花森安治)



2. だれが、どうやって進めるか

業務改善やマネジメントを進めるうえで、学校がもっておきたい視点
現場力の3つの段階



遠藤功『現場論－「非凡な現場」をつくる論理と実践』、2014年をもとに一部加筆

2. だれが、どうやって進めるか 今日の話のまとめ

■業務改善は**なんのため**？

- ✓子どもと向き合う時間の確保という狙いはまちがっていないが、**「子どものため頑張ろう」という善意**が多忙化を加速させてもいる。
- ✓**自己研鑽**の時間を増やす、あるいは**「探求的な生活が、人生への糧になり、授業の糧になる」**。そんなための業務改善があってもよい。

■業務改善は**だれが、どうやって**進めるの？

- ✓なぜ、学校では仕事は増えるばかりで、減らすことが苦手なのか？
課題分析が不足していること、そもそも論を軽視して手段が目的化しがちなこと、それらの結果多方面に力が割かれて**個業化**が進んでいること、バラバラの方向を見て活動していることなどが事態を悪化させている。
- ✓校長や教育委員会の役割も大切だが、教職員の間で(また地域と連携しつつ)、**情報の共有→思いの共有→アクションの共有→学習の共有**を進めていこう。
- ✓**あなたの半径3メートル**に業務改善やマネジメントの素材はたくさんある。

2. だれが、どうやって進めるか

それなりの話が聞けたかな、で終わってももったいない。

あなたはどのようなことから始めたいと思いますか？

◎それはなぜ、なんのためですか？（到達目標）

◎そのためにどのようなことが鍵（キラーパス）となりますか？（プロセス）

◎だれと協力しますか（チーム・ネットワーク）

(参考)学校の先生、または日本の教育をよりよくしたい方向けの書評サイト Books for Teachersをはじめました！



学校 書評サイト 検索



2016-10-24 教育政策 教育全般 妹尾昌俊

教育改革で見過ごされがちつながり—The Missing Link

1 17 list

ブックマーク シェア ツイート

The Missing Link in School Reform (紹介：妹尾昌俊)

The Missing Link in School Reform (SSIR)
American educators, policymakers, and philanthropists are overlooking the role of the highly skilled individual teacher and undermining the benefits that come from teacher collaborations.



ssir.org

今日はちょっとした英語論文を紹介します。といっても5ページほどですが、日本の教育改革のゆくえ、それから学力向上における校長の役割などを考えるうえで、かなりヒントがありました。

続きを読む >

注目記事

- Books for Teachersについて
- 不屈の棋士—AIにない魅力
- 教育改革で見過ごされがちつながり—The Missing Link
- 公教育の無償性を表現する
- 『アクティブ・ラーニング時代の教師像』